

日本老年看護学会理事長ごあいさつ

理事長 太田 喜久子

会員の皆さまにおかれましては、お元気でお過ごしでしょうか。

日頃より日本老年看護学会にご協力いただき、ありがとうございます。2011年は、3月に大震災があり、6月に日本老年学会加入後初めての合同学術集会を開催するという、これからの老年看護のあり方に影響を与える出来事の多い年でした。

とくに災害支援では、非常時だけのものではなく、常時のつながりの重要性を教えてくださいました。本学会としても組織的なネットワークとして、1つは会員同士—地域的なつながりをもつ地方会の検討—や、関連学会、関連組織とのつながりをより強化すること等を考えていこうと思います。

1つの学会ではできないことも手をつなぎ合うことで、解決の道が開かれることがあります。日本看護科学学会との災害看護支援事業がよい例です。皆さまも災害看護支援のための助成に応募が可能であり、また同事業募金も募っております。互いの支えにより互いの活動を支え合うこととなりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

今後も、本学会では老年看護実践力のパワーアップなど実践的な課題に取り組んでまいります。皆さまの本学会へのますますのご協力、ご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

日本老年医学会平成23年度老健事業シンポジウム 「認知症の終末期ケアを考える—死生観をみつめて—」 ご報告

平成23年度老健事業シンポジウム「認知症の終末期ケアを考える—死生観をみつめて—」が2011年12月4日、東京大学安田講堂で開催されました。本学会からは堀内ふき副理事長が看護師の立場からのシンポジストとして参加しました。以下、堀内氏からの報告です。

「日本人の死生観を踏まえた、自然な看取りのあり方について、とくに認知症の終末期医療とケアに関する諸問題が話し合われた。演者は、医師、歯科医師、看護師、実際にPEGを造設して多くの課題を感じている外科医、そして終末期医療における法律の課題、などであった。さらに、高齢者の終末期の医療およびケアに関する日本老年医学会の「立場表明」(改定案)について説明された。

看護師としては、経管栄養の是非というより、それをアセスメントすることの重要性、患者や家族への説明、チーム全員のかかわりの重要性などを話した。討議のなかで、Advocateを各病院におけるとGeorge・J・Annasは言ったがそれがなかなかできていないという発言に対し、看護師は間に入り、さまざまな立場・意見をつないでいくAdvocateとしての役割を果たすことの重要性を認識していると発言し、会場から賛同を得ることできた。(副理事長 堀内 ふき)

東日本大震災支援プロジェクト ご報告

災害支援窓口 湯浅 美千代

平成23年度総会において承認された東日本大震災支援プロジェクトについて、主要なご報告や意見は学会誌16巻1号に掲載しております。7月以降、情報発信は少ないですが、プロジェクトメンバーの小野幸子氏より仮設住宅地に設けられた支援所の看護職確保が困難であることが寄せられ、日本看護系学会協議会にもこの現状を伝えております。その後、看護職の確保はできたとのことですが、被災地の看護職が心身ともに疲弊している状況を耳にしております。

学会誌16巻2号にはプロジェクトメンバーの六角僚子氏のご尽力により被災地で支援活動にあたった2名の方からのご報告をいただきました。現場の声を拾い上げ、記録としていくこともこのプロジェクトの使命と考えておりますので、皆さまからもぜひご報告を寄せていただきたく、よろしくお願いいたします。

また、今後の支援活動に向け、会員の皆さまのメール

アドレス、および災害時やその後の支援活動時に、学会等の活動に協力できることなどを登録していただきたいと考えております。学会からの情報、学会に送られた情報を会員の皆さまに発信し、ご協力いただくためです。本学会ニュースに登録用紙を同封いたしますので、ぜひご協力くださいますようお願いいたします。

また、下記募集がございますので、ご参照ください。

・日本看護系大学協議会連携事業 公益社団法人日本看護科学学会平成24年度災害看護支援事業助成事業の募集のお知らせ：

<http://jans.umin.ac.jp/news/120215.html>

・公益社団法人日本看護科学学会「災害看護支援事業」募金協力のお祝い：

<http://jans.umin.ac.jp/news/111006.pdf>

研究・教育活動推進委員会主催 ワークショップ
「論文投稿へのチャレンジ」ご報告

研究・教育活動推進委員会委員長 山本 則子

研究・教育活動推進委員会では、2011年10月16日(日)に東京医科歯科大学にてワークショップ「論文投稿へのチャレンジ」を開催しました。研究論文を作成して投稿し、査読のやりとりを経て掲載に至るまでがどのようなものであるか、「老年看護学」に投稿して掲載された論文の著者であり、今年度の奨励賞を受賞した長谷川真澄氏、伊東美緒氏を講師としてお招きし、論文作成から掲載までの実際のご経験について、とくに査読意見に基づく論文修正のプロセスに焦点を当てて紹介していただきました。また最後に、「老年看護学」編集委員長の北川公子氏より、編集委員長の立場より投稿者へ助言をいただきました。参加人数は計28名とこじんまりした会でしたが、研究の取り組みの背景や論文執筆時の苦勞、査読者とのやりとりの内容などを具体的にご報告いただき、活発に質疑応答ができました。参加者からは、投稿への具体的な足がかりができた、リジェクトをパワーにするという伊東氏の発言に勇気をもった、などの感想が聞かれました。今後も、老年看護研究の実践と論文執筆に資するプログラムを検討・提供していく予定です。

各委員会からのお知らせ

■編集委員会

第16巻第1号より、学会誌の装丁を一新しました。ま

た、第2号に関しては、例年より1か月、投稿締切を早めたこともあり、3月下旬に発行予定であります。

なお、次年度第17巻の投稿締切は、第1号が2012年4月30日、第2号が9月30日となります。投稿規程、投稿チェックリスト等の諸注意を学会ホームページに掲載しておりますので、投稿に際してはぜひご確認ください。随時査読も行ってまいりますので、会員の皆さまからのご投稿を心よりお待ちしております。

編集委員会委員長 北川 公子

■研究論文表彰選考委員会

本委員会では、現在、研究論文優秀賞および研究論文奨励賞の選考手続きを進行中であり、第17回学術集会以て選考結果を発表いたします。評議員の皆さまには、3～4月にかけて研究論文表彰選考のための投票用紙を配布いたしますので、学会の発展のため、そして研究者の育成のためにぜひ回答へのご協力をお願いいたします。

研究論文表彰選考委員会委員長 酒井 郁子

■国際交流委員会

2013年6月23日～27日にソウルにて開催予定のThe 20th World Congress of Gerontology and Geriatrics (IAGG 2013)におけるシンポジストについて、日本老年看護学会に演者紹介の依頼がありました。

つきましては、2つのテーマ(1. 高齢者を対象とした災害看護, 2. Long-term Care)に関して日本の老年看護の現状を講演することが可能な学会員の方を各1名公募させていただきます。なお、応募者の条件として、英語での講演、質疑応答が可能な方に限ります。また、IAGG 2013参加に係る旅費・宿泊費・参加費等はすべて自己負担となります。シンポジストとして応募希望の方は、2012年4月10日(火)までに、(1) 希望するテーマ、(2) お名前、(3) ご所属、(4) ご連絡先(E-mailアドレス、住所、電話番号)を明記し、日本老年看護学会国際交流委員会 辻村真由子委員(千葉大学大学院看護学研究科, E-mail: mtsujimura@chiba-u.jp)までご連絡いただけますよう、お願いいたします。

国際交流委員会委員長 正木 治恵

■研修委員会準備委員会

本委員会は平成24年度より発足予定の「研修委員会」で展開されるさまざまな老年看護学に関する研修事業を企画する委員会です。現在、酒井郁子理事を委員長、泉キヨ子理事、井上郁理事、伊藤恵理子会員を委員として活動中です。日本老年看護学会ならではの企画を立案していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

研修委員会準備委員会委員長 酒井 郁子

総務担当からのお知らせ

1. 平成24年度総会について

平成24年度の総会は、第17回学術集会の2日目、7月15日(日)に金沢歌舞伎座・金沢21世紀美術館にて開催いたします。ご参加のほどをよろしく願います。

2. 入会申込書の変更について

本学会では、入会審査において看護学の研究業績を記載いただいておりますが、この度、研究業績がない場合には、理事・監事・評議員の推薦を受けていただくよう変更することとなりました。学術集会の発表や学会誌投稿では申し込み前に会員となる必要があります。また災害支援や高齢者への看護能力向上を目指した研修の企画など、老年看護領域の実践者の方にご協力いただく事業も始まっているためです。研究業績がない方にもともに学会を盛り立てていきたいと考えております。

それに伴い、入会申込書を変更しております。身近な方で入会をためらっている方などがいらっしゃいましたら、入会をお誘いください。詳細については、学会ホームページをご覧ください。事務センターまでお問い合わせください。

3. 役員選挙について

平成24年度は役員選挙の年です。会員の皆さまに評議員を選出していただき、評議員によって理事・監事を選出することになります。選挙管理委員会を組織し、7月の総会時に公示、詳細をご報告いたします。選挙権を有するのは、平成24年度の年会費を納入された方です。また、被選挙人は、入会后3年以上を経過し、平成24年度の年会費を納入された方とな

ります。7月の総会後に選挙人名簿を作成しますので、6月29日までに年会費納入をいただきますよう、願います。

4. 第18回学術集会について

平成25年度の第18回学術集会は、日本老年学会合同学会との同時開催です。岐阜県立看護大学の学長である小西美智子学術集会長のもと、2013年6月5日(水)・6日(木)に、大阪のリーガロイヤルホテルを中心に開催いたします。

事務センターからのお知らせ

1. 年会費納入のお願い

平成24年度年会費の請求書を同封いたしますので、2012年6月29日までに郵便局よりお振込みいただきますよう、願います。

2. 登録内容確認票ご提出のお願い

現在登録いただいております、ご所属、住所、専門領域等の内容につきまして、確認をさせていただくこととなりました。同封の「登録内容確認票」に、現在登録中の内容を記載しておりますので、変更のある方は二重線にてご訂正のうえ、2012年6月29日までに学会事務センター宛てにご返送くださいますようお願いいたします(返送方法：郵送、FAX、E-mail添付等)。

3. アンケートご協力をお願い

同封の「日本老年看護学会 会員アンケート」(災害時の支援活動および研修への参加協力)をご記入のうえ、学会事務センター宛てにお送りくださいますようお願いいたします(送付方法：郵送、FAX、E-mail添付等)。

日本老年看護学会第17回学術集会

- 会 期：2012年7月14日（土）～15日（日）
- 会 場：金沢歌舞伎座・金沢21世紀美術館
- テーマ：当事者学としての老年看護学の追及—高齢期を生きる人との交流—
- 学術集会長：石垣 和子（石川県立看護大学学長）
- プログラム：
 - 会長講演；「“当事者学”に触れて見直す老年看護学（仮）」石垣和子（石川県立看護大学学長）
 - 特別講演；「当事者学としての市民科学—これからの看護との関係— 古在豊樹（千葉大学名誉教授）
 - 教育講演①；「老年期の入口に立って老年看護を考える」 野口美和子（前沖縄県立看護大学学長）
 - 教育講演②；「トランスレーショナルリサーチと老年看護—裾創研究を例に—」
真田 弘美（東京大学大学院教授）

- 参加申込について：

事前参加申し込みは、2012年5月31日（木）までです。事前申し込みへのご協力をよろしくお願いいたします。

<参加費>

	会 員	非会員	学生（大学院生は除く）
事前申込	9,000円	11,000円	6,000円
当日申込	10,000円	11,000円	6,000円（非会員の1日参加6,000円 抄録集別）

<参加申込方法>

下記郵便振替口座に、参加費をお振り込みください。

- ・加入者名：日本老年看護学会第17回学術集会
- ・口座番号：00770-8-60985

【第17回日本老年看護学会学術集会事務局】

〒929-1210 石川県かほく市学園台1-1

石川県公立大学法人 石川県立看護大学 成人・老年看護学講座老年看護学内

TEL・FAX：(076)281-8337 E-mail：rounen17@ishikawa-nu.ac.jp

日本老年看護学会ホームページ <http://www.rounenkango.com>

【編集】総務（広報）担当理事：大塚真理子（埼玉県立大学）

【発行】日本老年看護学会事務センター

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂4-1-1 オザワビル2F

TEL：03-5206-7431 FAX：03-5206-7757

E-mail：rounenkango@nqfm.ftbb.net URL：http://www.rounenkango.com/